



釜石

「釜石復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」 地域共通テーマ議論のとりまとめ

震災復興を契機に築いた新たな「つながり」が、釜石や東北の復興や地域活性化の「新たな資源」となっていることに気付き、それを活かし合い、地域社会・経済を発展させていくことが、東北の持続可能な未来のために今一緒にできることだと考えます。

震災前から岩手県は既に人口減少や地場産業の低迷が地域の課題でした。持続可能な地域をつくるためには、このような地域課題をビジネス展開によって解決していくことは益々重要になっていきます。震災復興をきっかけに日本や世界各地に様々なネットワークが広がりました。それは、持続可能な地域創造を構築する大きな資源となっています。

【具体案】

- この土地で働きながら生きることをあきらめない
- どのようなビジネスでも、チャンスやタイミングを見極め、つかみとる
- 同じミッションや想いが共有できるネットワークを築く
- この土地の人や気候が育んだ風土や文化を商品の付加価値として販売していく
- 様々な人や団体、事が交流し、つながっていくような場を常に設ける
- 地域の経済の中に新たな「儲かる」仕組みを創る
- 震災復興をきっかけにできた地域内外の協働の環を継続的な地域社会発展へとつなげる
- 地域の持つ潜在的な価値に気付き、イノベーションを起こしていく
- 悩みながらも現場で動き、前に前にと事業を進めていく
- 販路を見据えたビジネスを展開していく
- 「情報」「営業」「稼ぐこと」を常に意識し、地域内外の団体とつながりを持ちながらビジネスを推進する
- 今、被災地は数十年後日本の社会の姿だと思ふ。この状況から逃げずに信念を持ち、持続可能な社会の東北モデルを創る